

チョウゲンボウの巣箱を鉄塔に設置してカラスを排除

○中島欣也・中島京也・中島知也（日本ワシタカ研究センター）

山上隆博・川越泰（中部ワシタカ研究サークル）

送電線の鉄塔にカラスが営巣すると停電などが発生し、電力会社各社は繁殖期ごとに苦勞をしている。近年は、カラスが巣材に木の枝を使用しないで、針金製コートハンガーを集めて造巣することが多くなったこともあり、巢外縁部のハンガー金属が短絡（ショート）を起こすのである。

高圧鉄塔をカラスの営巣樹にしない方法として、チョウゲンボウの巣箱を設置することで好結果を得たので、チョウゲンボウ専用の巣箱の寸法などを報告する。

巣箱は自然界で営巣箇所の不足している野鳥のために効果的な代替品ではあるが、利用させようとする鳥の体軀に適した大きさに作られていないと、目的の鳥種が巣箱で産卵してくれない。そこで、チョウゲンボウの体軀の各部位をミリ単位で測定することにした。日本ワシタカ研究センターには各府県庁から保護を委嘱されたチョウゲンボウの負傷個体5羽が飼養中であつたので、ごく自然に両翼をたたんだ時の体軀の直径や立った姿勢での頭頂から趾裏までの寸法など、図鑑などには記されていない数値を正確に得ることができた。その数値に基づいて作ったのが付図の巣箱である。巢孔の直径および巢孔から底までの高さの寸法を決めるのに特に留意し、塗装はせずに松材の焼板を使った。

今回、電力会社の理解を得て巣箱を掛けることができた。その鉄塔は、水田地帯の真中に立っており、北方向と東方向に約 1km 離れて集落があり、南側は水田が続き、西側は幅約 80m の河川敷という地点にあり、以前から近辺にチョウゲンボウの生息が認められていた。高さ 53.6m の鉄塔の北西側の鉄柱の地上高 36.2m の箇所に巣箱を、その孔を東南方向に向けてステンレス・バンドで固定した。鉄柱の内側に設置したので巣箱がやや下に傾いた形に収まり、雨水の侵入を避けられて好都合であつた。

2003年11月28日に設置したこの巣箱で、2004年5月20日に4羽の雛の巣立ちを確認できた。営巣中は♂が鉄塔の頂点で見張りをし、近づくカラスを執拗に追い払っていたので、ついにカラスは隣接する鉄塔にも巣を構えることができない有様であつた。

雛の巣立ち後も巣箱の屋根で雛への餌の受け渡しが行なわれ、♀もカラス攻撃に加わって雌雄がこの巣箱に執着する様子が見てとれた。一部始終は映像を用いて紹介する。

2005年にも、この巣箱を使ってチョウゲンボウが巣立ちをして行った。

